

2013年9月26日

日本容器包装リサイクル協会 PET ボトル入札制度検討会殿

入札制度検討会ワーキンググループ (WG) : 近藤方人

## WG活動報告とWG継続の提案

<WGの開催> 第1回：7月2日 第2回：7月16日 第3回：8月1日  
第4回：8月27日 第5回：9月24日

## &lt;WG 設置時点の問題意識&gt;

入札制度検討会による入札制度の改善策が複数回入札または市況連動制等のいずれとなろうとも、入札対象量と落札可能量との大幅な乖離を背景とする入札の過当競争を緩和するための手立てが必要とされる。

価格競争のみに委ね、このまま過当競争状態を放置しては、わが国のあるべき持続性のある PET ボトルのリサイクル基盤が崩壊しかねないという強い懸念がある。

## &lt;検討すべき具体的緩和策について&gt;

- ・「総合的評価方式」による再商品化事業者のランク付け、及び、落札可能量の調整。  
その具体的内容・策定作業については、将来にわたってのあるべき PET ボトルリサイクルを目指すための 評価軸&評価項目の設定、そして、評価項目ごとの重み付けとなる。
- ・しかし一方、このような対応策について再商品化事業者からの意見聴取を行なったところ賛否両論であった。

また、反対意見に対する説得力ある説明や、論点整理を行なうには至っていない。

主なる反対意見としては、以下の3点であった。

- ① 運用の公平・公正が担保できるのか
- ② 評価基準の設定が困難 (現在の PET ボトルリサイクルに特段の問題はない)
- ③ 設備能力の小さい小規模事業者にとって不利となる可能性

## &lt;WG の慎重姿勢が必要&gt;

前項で述べたごとくの再商品化事業者からの反対意見には一理があり、それだけに総合的評価方式の中身を詰める作業は慎重にならざるを得ない。

また、第4回 WG において、あらたに、まずは PET ボトルリサイクルが抱える構造的な問題 (過当競争にあるのか、市場の機能とは 等) の所在に立ち返っての丁寧な議論が必要であるとの指摘があった。

<今後のWGの方向性>

入札制度検討会にて入札制度自体の改善がなされようとしているが、WGは、それだけでは不十分とする認識から出発し議論を重ねてきた。しかし尚、上記のような問題について検討が不十分である。

よって今後ともWGの継続において、協議を進めていくことを提案する。

(以 上)